

地 域 連 携

はびきの Medical Net

F U T U R E 呼吸器外科

「呼吸器外科における画像支援手術」

・ PICK UP

・ はびきのパーソン

・ 地域連携NEWS

・ 学会報告さるーと

・ 退職医師のお知らせ

・ お知らせ

・ 連携医療機関のご紹介

排尿ケアチーム

看護部 医療技術部

小児科「小児アレルギーと移行期医療の取り組み」

肺腫瘍内科 他

「CT・MRIなどの検査申込書の様式が変わります！」

大槻医院 大伴診療所さま 医療法人 長崎医院さま

March

3

Vol.13





呼吸器外科における 画像支援手術

肺の微小病変とCT

日本のCT普及率はOECD加盟国中最多であり、日常診療に汎用される機器である。また解像度の進歩も目覚ましい。呼吸器診療では診断の根幹となる機器であり、10mm以下の微小なスリガラス陰影（GGN）も容易に検出されるようになってきている。早期の肺癌や前癌病変がGGN像を呈することから、適正な経時的評価と診断及び治療が求められる。

肺の微小病変の診断と治療

肺微小結節は気管支鏡生検が困難なことが多く、癌や前癌病変が疑われる場合には、診断及び治療を目的とした外科的切除が行われる。

外科的診断において、まず問題となるのは肺実質内の小病変をいかに同定するかという点である。術中に触知困難と予想される病変には、事前に病変のマーキングが検討される。手術前日などに気管支鏡下あるいは経皮的な色素注入がよく用いられるが、時間的制約や解剖学的制約から詳細な病変のマーキングに至らないことがある。

術中CTを用いた画像支援手術

近年、フラットパネルディテクターを用いてCアームが回転し撮影を行うコーンビームCT(CBCT)が、様々な医療分野に用いられている。

高分解能CBCTは従来のCTに近い画像の描出が可能であり、イメージガイダンスとして有用である。外科領域ではハイブリッド手術室における画像支援手術に用いられる。



↑ハイブリッド手術室における術中CBCTの撮影

呼吸器外科 主任部長
門田 嘉久（かどた よしひさ）

【所属学会・資格など】

日本外科学会（指導医・専門医）、日本呼吸器外科学会（評議員・専門医）、日本胸部外科学会（評議員・認定医）
日本肺癌学会（評議員）、日本がん治療認定医機構（認定医）、大阪大学医学部 臨床教授

呼吸器外科 主任部長

門田 嘉久

Yoshihisa Kadota

FUTURE

今後の医療を見据えて

高分解能CBCTでは10mm以下のGGN病変も描出される。呼吸器外科手術では、微小病変を術中にリアルタイムに評価する画像支援手術が可能となる。

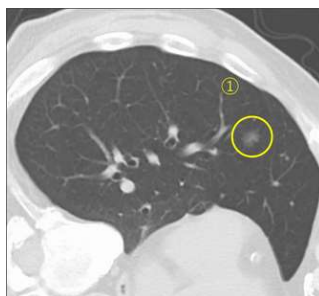
実際には、麻酔導入後、手術体位とし撮影部位の設定を行う。胸腔鏡下に病変相当部位の胸膜にマーカー（チタンクリップ）を留置し、CBCTを施行する。撮影は5-10秒程度であり麻酔器の調整により含気保持状態での撮影が可能である。解析画像をもとに病変及びサージカルマージンを設定し切除を行う。

病変部位の詳細な同定により、早期の肺癌や前癌病変に求められる縮小手術（区域切除や部分切除）に有用な手技となっている。

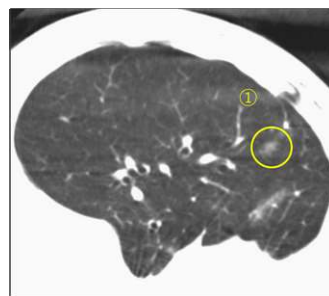
また、他のマーキング法においても病変との位置関係の評価のためのCT撮影が必要になることから、術中CBCTによる放射線被曝は許容されるものと考えられている。

術前CTと術中CBCTの比較ですが、CBCT画像でも正確に腫瘍の位置が同定できていることがわかります。

術前CT



術中CT



↑ 術中CBCT画像によって
微小結節①(径8mm)の位置を同定

当院における画像支援機器を用いた呼吸器外科手術

令和5年新病院開院に合わせて、外科手術機器、画像新診断機器が一新されました。

ハイブリッド手術室が設置され、高分解能CBCTを用いた術中CTによる画像支援手術を開始し、症例を重ねております。低侵襲・高精度な外科診療を目指し、地域に貢献できるよう努めてまいります。

PICK UP 排尿ケアチーム



令和5年より排尿ケアチームは活動を開始しました。チームメンバーは泌尿器科医師、理学療法士、皮膚・排泄ケア認定看護師、下部尿路症状の排尿ケア講習会を修了した看護師で構成されています。

排尿の問題は加齢だけではなく様々な病気や手術、薬剤によっても引き起こされます。尿失禁や尿閉などの排尿の問題に対して、看護師による排尿誘導や生活指導を中心に、理学療法士による排尿に関連する動作訓練やリハビリテーション、医師による薬物療法等を組み合わせた「包括的排尿ケア」を実施し、多職種チームが介入する排尿自立支援を行っています。

院内での取り組み ～多職種で実践する包括的排尿ケア～

- ①膀胱留置カテーテル抜去後に尿失禁、尿閉、頻尿などがある
- ②膀胱留置カテーテル留置中であり、抜去後に尿失禁、尿閉、頻尿などの症状がでる可能性がある

上記の患者さんを対象に、排尿ケアチームは病棟看護師と共に排尿自立度や残尿チェックなどで下部尿路機能障害を評価し、必要なケア介入を行い排尿自立へ向けて支援しています。

患者さんには排尿日誌（排尿時間・尿量・もれの量・尿意や残尿感などの自覚症状）を記入していただきます。病棟看護師は排尿ケアを日々実践し退院指導を行い、外来看護師へ繋いで継続した排尿ケアを実践しています。

下部尿路障害の症状により間欠導尿や自己導尿が必要な患者さんもおられます。できるだけ不要な導入を避け、尿路感染を予防して排尿自立できるように考え、患者さんのQOL向上につなげられるように取り組んでいます。

チーム回診&カンファレンス

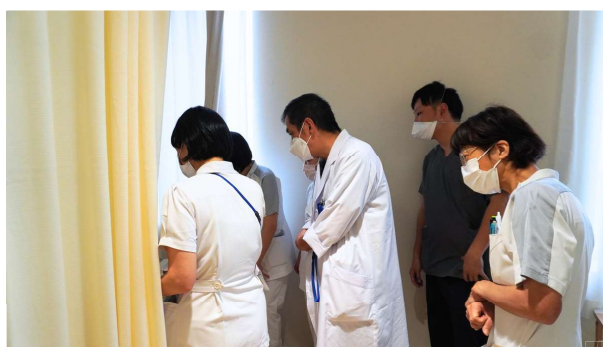
週に1回チーム回診をしています。泌尿器科の医師を中心に電子カルテから情報収集を行い、ラウンドで患者さんの排尿状況や日常生活動作、そして排泄に対しての思いなども確認しています。

ラウンド後はチームメンバーでカンファレンスを行います。電子カルテの患者さんの情報と併せて、現在の患者さんの問題点を明らかにし改善策を検討しています。退院後の生活を見据え、各職種のような視点や専門的知識を交えた積極的な意見交換をしています。

患者さんからも「尿漏れが治るか心配やったけど、相談できる人がいてくれてありがたい」という声も聞かれやりがいも感じています。



↑ラウンド後のカンファレンスの様子。多角的かつ専門的な意見が集まるのが多職種チームの強み。
←↓チーム回診でのラウンドの様子。困りごとなどがないか、しっかりと確認しています。



理学療法士から一言！

骨盤底筋群の筋力低下によって引き起こされる尿漏れ。正しい筋力トレーニングを毎日続けると、3週～2ヶ月で尿漏れの予防・改善が期待できます。

骨盤底筋運動は、臥位でも座位でも立位でも行え、術前・術後に限らず、いつでも始めることができます。対象者の方にはパンフレットを用いて説明しています。



ピックアップ

～ 当センターのスタッフを紹介します ～

はびきのパーソン

当センターでは、個性豊かなスタッフがそれぞれのセクションで明るく頑張っています！
少しでも当センターのスタッフに親しみを持っていただけると幸いです

看護部
手術室 看護師
坂本 加枝

kae sakamoto

みなさまの癒しはなんですか？



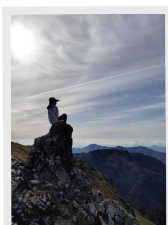
登山の消費カロリーを知りダイエット目的で登山を始めました。この10年山に魅了され現在もハマっている私の癒しの1つです。

山頂で景色を楽しむだけでなく鳥のさえずりや虫、太陽や空が照らす植物の美しさ、寒い時期はキーンと冷たい肌感覚、落葉のサクサクとした靴底の土の感触、春夏秋冬を表情豊かに自然の移ろいを深く実感できます。山に身を置くことで心が癒され心地よい疲れも混ざり心身共にとてもスッキリとします。山の神パワーだと勝手に思っていますがパワー漲りまたがんばろうと思えるのです。

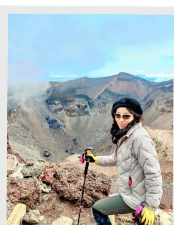
ここ数年は北アルプスにも挑戦していますが高山は午後より天気変動しやすく早朝登山とし昼からは山小屋でのんびり過ごし、おでんやラーメンを食べて軽く一杯いただくのも楽しみの1つです。次はどここの山に行こうか？ルートを考える時間も楽しいですよ。

近隣のかつらぎ山金剛山によく出没しています。見かけましたら是非お声かけてくださいね。

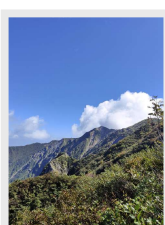
思い出の写真たち



↑ 山の展望を楽しむ



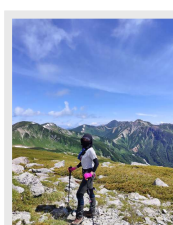
↑ 富士山山頂火口



↑ 鳥取大山



↑ 徳島剣山



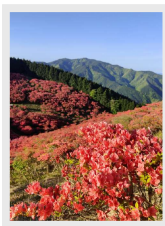
↑ 北アルプス双六岳



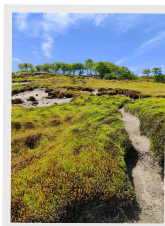
↑ 高山植物



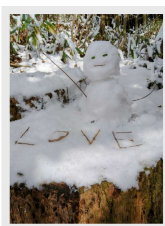
↑ 槍ヶ岳



↑ 大和葛城山



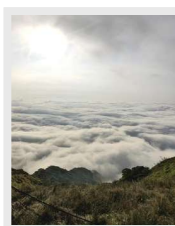
↑ 鈴鹿山脈
イブネ苔の大地



↑ 雪山で遊ぶ



↑ タマゴダケ



↑ 伊吹山雲海



↑ 釈迦ヶ岳・猫岳

医療技術部
放射線科 放射線技師
大西 亜希

Aki Onishi

異国で味わう非日常



↑ミラノのドゥオモ

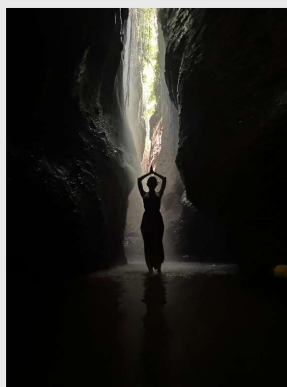
私の1番の趣味は海外旅行です。令和6年はインドネシアのバリ島とイタリアを訪れることができました。今回は旅の思い出を皆さんと共有したいと思います。

バリ島ではウブドという地域で沐浴をしたり、棚田を見ながらフローティングブレイクファストを食べたりと自然のエネルギーを感じる旅でした。バリ島を訪れるのは2回目で、何度でも行きたいお気に入りの旅行先です。

そして念願のイタリア旅行では欲張って7泊8日で5つの都市を観光しました。楽しみにしていたミラノのドゥオモとローマのコロッセオは圧巻の迫力でした。その他にも最後の晚餐やバチカン美術館でたくさんの芸術に触れたり、本場のピザやパスタ、ジェラートを食べたりと大充実の旅になりました。スリ等危険なイメージも強いイタリアですが、無事楽しい思い出のみ持ち帰ることができました。

まだまだ訪れたい国がたくさんあるのでこれからもお仕事頑張ります！

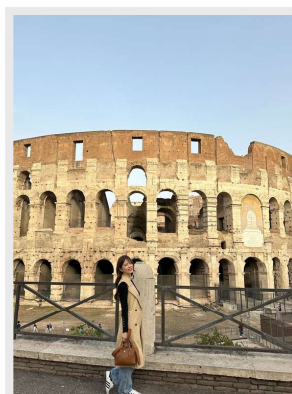
思い出の写真たち



↑沐浴・滝行のスピリチュアル体験



↑フローティング
ブレイクファスト



↑築2000年のコロッセオ



↑毎日食べたジェラート



小児アレルギーと 移行期医療の取り組み

小児科 主任部長／アトピー・アレルギーセンター長

亀田 誠

昭和63年大阪大学医学部卒、平成3年より当センター小児科

日本小児科学会専門医・指導医

日本アレルギー学会理事／日本小児アレルギー学会常務理事／日本小児臨床アレルギー学会理事長

日本小児科学会移行期支援委員会委員

移行期医療とは

今回は少し毛色の違うお話をしたいと思います。皆さんは移行期医療という言葉に耳にしたことがあるでしょうか。移行期医療とは小児期発症の慢性疾患をもって成人に至る患者に対して実施されるものであり、具体的には患者家族を一体として診療するスタイルから患者中心の診療に移行することを目指す医療です。

最も大切なことは子どもが病気を自分の問題であると認識し、それに対してどのように治療すればよいのかを考え、実行する力を身につけることです。具体的には自分の症状を自分で説明できる、医療者に質問できる、納得して治療を継続できる、薬剤の管理が自分でできることなどが含まれます。

実は移行期医療が本邦で明確に示されたのは平成25年であり、一部の疾患ではかなり進んでいるものの全体としてはいまだ十分な取り組みはなされていません。

当センターでの取り組み

私たちは気管支喘息、アトピー性皮膚炎、食物アレルギーなど多岐にわたるアレルギー疾患を診療していますが、いずれも成人に持ち越す可能性がある疾患です。特に年齢が上がればその可能性が高くなります。そこで私たちが最初に取り組んだのは小学校卒業時および中学校卒業時にメッセージを渡すことです。この取り組みで成長に伴って病気への取り組みがより患者本人に移行することを示し、これまで保護者がしてくれたことを振り返る機会となることを狙っています。その上で治療にもより主体的に参加することを求めるようにしています。

移行期医療は最終的には成人診療科に紹介する時期にどの程度のことができるようになっていくかで評価されるべきものです。先生方のところに受診した時にどのような状態であるかもフィードバックして頂ければと思います。



学会報告さるーと

当センターでは、研究、学会発表、論文報告を積極的に行っており、今後とも最新の知見を発信し続けます

📌 今回の見どころ！

肺腫瘍内科 山内医師がまとめた研究報告が 英文国際雑誌に掲載されました！



肺腫瘍内科 医員
山内 桂二郎

当センターでは多くの肺がん患者さんの診察を行っており、適切な治療ができるよう努めております。また、抗がん剤の治療効果など、日頃から疑問に思っていることを仕事後にデータをまとめ日々研究しています。

今回研究した「高齢者切除不能非小細胞肺癌に対する低用量連日カルボプラチンを用いたCCRTデュルバルマブ維持療法の実世界データ」が、英文国際雑誌「ANTICANCER RESEARCH vol. 45 no. 1 369-378」に掲載されました。

今後もよい研究報告が行えるよう励んでまいります。

Real-world Outcomes of Durvalumab Consolidation in Elderly Patients With Unresectable NSCLC Following CCRT With Daily Low-dose Carboplatin

KELJIRO YAMAUCHI, RIIKO KOMUTA, HIDETAKA TANABE, MASASHI YOKOYAMA, SO TAKATA, TAKAFUMI YANASE, YUKI HOSONO, SHINGO SATOH, NAOKO MORISHITA and HIDEKAZU SUZUKI
Anticancer Research January 2025, 45 (1) 369-378; DOI: <https://doi.org/10.21873/anticancer.17425>

【背景/目的】

切除不能な局所進行非小細胞肺癌（NSCLC）の高齢患者における、低用量カルボプラチンを連日投与する同時化学放射線療法（CCRT）後のデュルバルマブ地固め療法の臨床的有益性は依然として不明である。

【患者と方法】

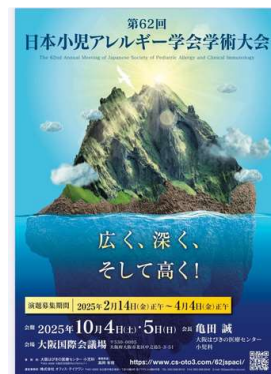
単一施設の後向きコホート研究で、平成26年4月から令和3年3月までに低用量カルボプラチンを連日投与するCCRTを受けたNSCLCと診断された患者の医療記録を分析した。

概要の続きは、こちらより
ご確認いただけます



第62回日本小児アレルギー学会学術大会の会頭に 小児科 亀田医師が選出されました！

この度当センター小児科 主任部長 亀田医師が会頭となり、第62回日本小児アレルギー学会学術大会が令和7年10月4日・5日に大阪で開催されることになりました！
現在公開講座も含めて鋭意準備中ですので、どうぞご期待ください。



お知らせ

CT・MRIなどの検査申込書の 様式が変わります！

平素より大変お世話になっております。

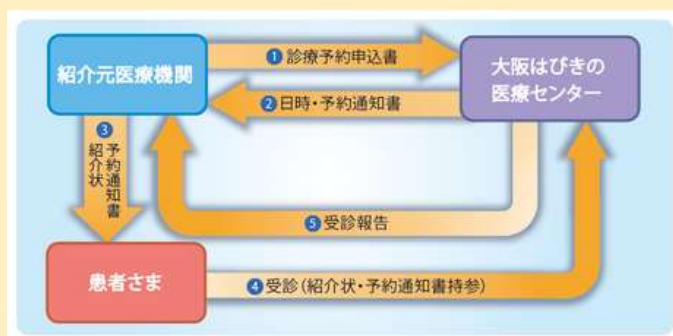
これまでCT・MRIなどの検査予約依頼があった場合、診療情報提供書に加え、検査申込書もお送りいただいております、皆さまに大変ご負担をおかけしておりました。

今回、診療情報提供書と検査申込書を統一することで、患者さんの情報を二重でお送りいただく必要がなくなりましたため、より簡易にご依頼いただけるようになりました。

引き続き先生方からの検査依頼ぜひお待ちしております。

※新しい様式は右ページにございます。

- ①紹介元医療機関・・・右ページの診療情報提供書を地域医療連携室にFAX送信してください。
- ②地域医療連携室・・・受信日時と予約通知書を、紹介元医療機関へFAXいたします。
- ③紹介元医療機関・・・患者さんに予約通知書と紹介状をお渡しください。
※患者さんのカルテと診察券は事前に作成いたします。
- ④患者さん・・・予約当日は予約時間の10分前に総合案内にお越しください。
※感染症内科受診の際は、感染症内科外来に直接お越しください。
- ⑤地域医療連携室・・・患者さんが受診されたときは、紹介元医療機関に報告いたします。



診療情報提供書

令和 年 月 日

〒583-8588 大阪府羽曳野市はびきの3-7-1 電話：072-957-2121 FAX：072-957-8051

地方独立行政法人大阪府立病院機構 大阪はびきの医療センター

画像診断科担当医 侍史

紹介元医療機関

所在地及び名称 _____ FAX番号 _____

医 師 名 _____ 印 電話番号 _____

患者氏名	フリガナ ()		
患者住所		性 別	男 ・ 女
生年月日	M・T・S・H・R 年 月 日 (歳)	電話番号	— —
1. 主訴又は病名			
2. 臨床診断・検査目的			
3. アレルギー・感染症 情報など			

検査予約申込書

☐ CT	☐ 単純	☐ 頭部 ☐ 頸部 ☐ 胸部 ☐ 上腹部 ☐ 骨盤部 ☐ 上肢 ☐ 下肢 ☐ 脊椎
	☐ 造影	☐ 胸部～骨盤部 ☐ 上腹部～骨盤部 ☐ その他 ()
☐ MRI	☐ 単純	☐ 頭部 ☐ 頸部 ☐ 胸部 ☐ 上腹部 ☐ 骨盤部 ☐ 上肢 ☐ 下肢 ☐ 脊椎
	☐ 造影	☐ MRCP (単純にチェック) ☐ その他 ()
☐ RI	☐ 骨シンチ	

受診希望日	第1希望() 第2希望() ※都合の悪い日()
待機状況	☐ 貴院待機中 ☐ 急ぎではない ※患者さんがお待ちの場合はチェックしてください
持参画像の有無	☐ あり (ありの場合、 ☐ CD-R ☐ フィルム) ☐ なし

※ 上記をご記入の上、FAXして頂きますようお願いいたします。

(MRIの場合はチェックリスト、造影(CT・MRIともに)の場合は問診票、同意書も共に送信してください)

※ 造影検査の場合は検査3時間前から絶食をお願いします。

予約通知書 は患者さんにお渡しください。

大阪はびきの医療センター 地域医療連携室 電話：【直通】072-957-8030 (代表) 072-957-2121

Announcement

退職医師のお知らせ

呼吸器内科

- ・細野 裕貴
- ・山内 桂二郎

肺腫瘍内科

- ・高田 創

感染症内科

- ・仮屋 勇希

腎臓内科

- ・上床 隆太

消化器外科

- ・宮崎 知
- ・浦川 真哉
- ・吉村 大士

産婦人科

- ・二階堂 菜月
- ・狩野 雅人

小児科

- ・中竹 俊伸
- ・山手 和智
- ・松村 知美

皮膚科

- ・長塚 由美
- ・宇田 絵美

耳鼻咽喉・頭頸部外科

- ・小幡 翔

画像診断科

- ・大賀 沙美

最新の外来担当表や
休診情報は、
こちらよりご確認ください





地域連携はびきのMedical Netの
過去号は登録医専用ページで
ご確認いただけます



Vol.9 (4月号)
特集：アレルギー・リウマチ内科



Vol.10 (7月号)
特集「産婦人科」



Vol.11 (9月号)
特集「耳鼻咽喉・頭頸部外科」



Vol.12 (12月号)
特集「腎臓内科」

今後とも地域の先生方の御指導をいただきながら地域医療支援病院としての機能充実を図りつつ、南河内地域の医療の発展に寄与していきたいと考えております。
今後とも御支援の程宜しくお願い申し上げます。

連携医療機関（登録医）のご紹介

医療法人 大槻会

大槻医院 大伴診療所

院長 吉増 隆之 先生

〒584-0042 大阪府富田林市北大伴町1-3-26

電話 0721-24-1581

URL <https://www.d-otsuki.com/>

この度、前医の大槻志子先生の退職に伴い、令和6年10月より引き継がせて頂きました吉増隆之です。
大槻先生のお父上様の時代から、この地域の方々に信頼されていた診療所ですので、まだまだ不慣れな事も多く、地域の先生方に助けて頂き患者様に寄り添った診療を続けたいと思いますので、どうぞ宜しくお願い致します。

診療時間	月	火	水	木	金	土	日	祝
9:00~12:00	○	○	○	/	○	○	/	/
15:45~18:00	○	/	○	/	○	/	/	/



医療法人 長崎医院

院長 長崎 雄二 先生

〒583-0027 大阪府藤井寺市岡2-1-4

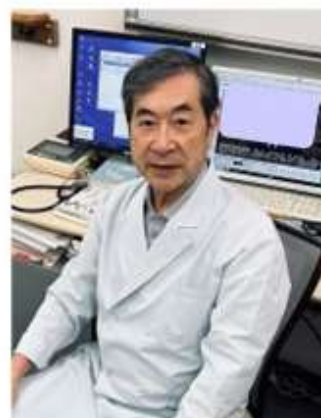
電話 072-955-7070

URL <https://nagasakidclinic.com/>

近鉄南大阪線藤井寺駅から北へ直線200メートル。イオンの向かいで開業しています。
胃腸の病気の治療を中心に、得られる情報が多く、かつ苦痛の無い超音波検査で体のいろいろな情報を探りながら、訴えられた症状がどうして起こるか？のメカニズムを常に考えながら診療して対策を患者さんと一緒に考えるように心がけています。

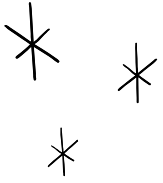
診療時間	月	火	水	木	金	土	日	祝
9:00~12:00	○	○	○	/	○	○	/	/
17:00~19:30	○	△	○	/	○	△	/	/

受付時間：午前11:45まで 午後19:15まで
△：火・土の午後は検査のみ（要予約）



◆登録医へのご登録のお願い◆

当センターは地域医療支援病院として、地域の医療機関と当センターが協力のもと相互の機能を有効に活用し、医療連携を深め広げることにより、地域全体として患者さんにとってより質の高い医療を提供していくことを目的に登録医制度を実施しています。
ぜひ登録をお願いいたします。



MEMO

A series of horizontal dotted lines spanning the width of the page, providing a template for writing a memo.





◆ 事前に予約をお取りください

➤ 紹介状があっても予約がない場合は、待ち時間が長くなることや当日の受診ができない場合もあります。

➤ **呼吸器内科、肺腫瘍内科、アレルギー・リウマチ内科（松野医師のみ）、消化器内科**は、**完全予約制**となっております。
必ず地域医療連携室を通してご予約をお取りくださいますようお願いいたします。

当日の緊急受診が必要な患者様におきましては、できる限りお受け入れできるよう調整いたしますので、地域医療連携室にご連絡いただけますようお願いいたします。

◆ 受診に際してのお願い

➤ 消化器内科・心臓血管外科では常勤医不在のため、手術等の入院加療が必要となる場合は、他院を紹介させていただく場合がございます。ご理解のほどよろしくお願いいたします。

地域医療支援病院として紹介・逆紹介をさらに推進してまいります

私達は、最新の医療水準で、最適な医療サービスを、思いやりの心をこめて提供します。



地方独立行政法人大阪府立病院機構

大阪はびきの医療センター

〒583-8588 大阪府羽曳野市はびきの3-7-1

TEL : 072-957-2121(代)

<院内診療科のご案内> (令和7年3月現在)

呼吸器内科、肺腫瘍内科、感染症内科、アレルギー・リウマチ内科、循環器内科、消化器内科
糖尿病・内分泌内科、腎臓内科、呼吸器外科、消化器外科、心臓血管外科、乳腺外科
産婦人科、小児科、皮膚科、耳鼻咽喉・頭頸部外科、泌尿器科、整形外科、眼科
歯科口腔外科、麻酔科(高内 裕司)、集中治療科、救急診療科、画像診断科、放射線治療科
臨床検査科、リハビリテーション科、緩和ケア科、外来化学療法科、病理診断科

ホームページ



Facebook



Instagram



Official LINE

